

ボール

◆個人戦で使うボールは「**お互いに持ち寄り**」です。

- ・試合でコートに入る時は、未開封の試合用ボール（2個入りのダンロップ・A O＝オーストラリアン・オープン）を必ず持って入ります。
- ・**どちらの缶を開けるかで時間をとるので、ドロー番号の若いほうの選手が缶を開ける**こととします。勝者は未開封缶を、敗者は使用したボールを受け取ってコートを出ます。
- ・**試合中に万が一ボールがコート外に出て、探してもどうしても見つからない場合**には、コート外にいる選手や関係者が本部に来て、本部から代替りのボールをもらい、そのボールで試合を続けます。**開封していない缶は開けない**でください（勝者が受け取る未開封缶がなくなってしまいます）。ボールは探し続けてください。見つかったらその時点で見つかったボールを使い、本部から受け取ったボールはベンチに置いておき、試合が終了したら返却してください。もし、ボールが見つからず、本部のボールで試合をした場合にも、終了後返却してください。
- ・個人戦の3位決定戦は、お互いに開封したボールを持ち寄り、見せ合って状態の良いほうのボールを使用します。もし、双方とも持参したボールに余裕があって、未開封缶がある場合にはそれを使ってまいません。
- ・**隣のコートのボールと見分けがつかなくなった場合**には、ボールにプリントしてある「番号」で判別してください。試合前に自分たちの試合球の「番号」を確認しておくといいでしょう。
- ・**ボールを忘れた場合は速やかに本部に申し出て購入**してください。2個入缶は800円です。

ゼッケン

◆**会場に着いたらゼッケンを持参しているか必ず確認を！**

- ・中体連の試合は（九州大会も含め）、**所定の位置に必ず「ゼッケン」をつけなければ試合ができません。ゼッケンは布製**とします。紙類は不可です。ゼッケンをつけるのは、ユニフォームのシャツの背面です。**肩甲骨の真ん中付近にゼッケンの上端がくるように**つけます。それより下がらないようにします。腰のあたりにつける選手がいますが、それではダメです。だらしないつけ方にならないようご指導ください。
- ・**万が一忘れた場合**は、気づいた時点ですぐに本部席に届けてください。所定のゼッケンと同じ仕様の何も書いていないゼッケンを若干枚準備しています。**有料（500円）で販売**します。購入のうえ、油性マジックで記名して使用します。
- ・試合のためにコートに入ったら、サーブ練習をする前に**必ず相手とゼッケンを見せ合って対戦相手に間違いがないか確認**をしてください。過去にも間違った相手と試合をして途中で気づかず、その試合が終了した後に間違いに気づいた、という事例がありました。もちろん正規の対戦相手とやり直しになりました。猛暑のなか、試合をやり直すのは体力的にも精神的にもたいへんきつくなります。ちょっとした手間を惜しまずに確認作業をしてください。もちろん、対戦相手の学校名や氏名を把握しておかねばなりません。

団体戦

◆欠席者が出て7名に満たなくなった場合は「棄権」となります。

- ・朝の**団体戦受付**をする時は、**登録選手全員の出席とゼッケン持参を事前に確認のうえ、主将が代表で本部席に来てください。欠席者がいたら、その時主将に報告させてください。****服装等のチェック**も事前に確実に行ってください。正しいテニスウェアか装飾品（ミサンガやネックレス（医療用も不可））をつけていないか等のチェックしてください。大会期間中に万が一**違反が見つかった場合は、県中体連事務局（会長や理事長）とも相談のうえ、場合によっては出場させない（その個人、チーム）措置をとる場合もあります。**これは、事前のチェックだけでなく、**試合中や試合後に指摘があった場合も同様**です。
- ・試合前に提出する「**オーダー用紙・記録用紙**」（4枚同封）の出場選手記名欄は、各学校ごとに登録選手の名前が入れてあります。D2～S1に出場する選手の欄に○をつけてください。左右同じものが2つありますので、同じところに○がついているか確認ののち、**切り取らずに本部席へご提出**ください。本部で確認してから切り取って、両方ともお渡ししますので、「相手との交換用」を試合前の挨拶の時

- に交換してください。左側は記録用紙にもなっていますので、1つ1つの対戦結果を間違いなく記録してください。生徒に記録させる場合には、記録の仕方を説明して間違いのないようにお願いします。
- ・オーダー・オブ・プレイ板をよく見て、自分たちの試合がどのコートにどういう入り方をするのか確認してください。「5面同時進行」の試合が多いですが、空いたコートに1試合ずつ入れていく場合もあります。使用するコート番号をしっかりと確認願います。
 - ・開始前の挨拶、終了後の挨拶時には、監督は必ず立ち会ってください。ネットをはさみ、ネットから少なくとも1m以上離れて並んでお互いの紹介をしてください。**握手はしません。**試合でも同様です。
 - ・これから行う試合の競技方法は事前にしっかり確認してからコートに入ってください。また、5ポイント全てを行うのか、打ち切りがあるのかも確認しておいてください。
 - ・団体戦で勝利した学校は、速やかに結果の報告を（記録用紙を持って）本部席にて行ってください。次の対戦用のオーダーは、なるべく早く提出してください。
 - ・団体戦でベンチに入れるのは、**監督・登録済みの外部コーチ・登録済みの選手**だけです。1つのコートに1人だけ入れます。**選手にアドバイスできるのは、（第1ゲーム終了時とタイブレーク時を除く）エンドチェンジの時だけ、90秒ルール**の範囲内です。

個人戦

◆団体戦も個人戦もコートの横からの応援はできません。後ろのみOKです。

- ・個人戦出場選手は、受付終了時刻に遅れないように本人が受付を済ませてください。
- ・受付時刻は本部席内の壁にある時計を基準とします。団体戦も同じです。
- ・遅刻はいかなる理由でも認められません。**渋滞での遅れは理由になりません。**
- ・受付をする時は、**自分の番が来たらすぐに「自分のドロ番号と名前」を言えるように**しておきましょう。
- ・同じ学校で欠席（棄権）がわかっている選手がいたら、受付の時に知らせてください。
- ・ラウンドによって競技方法が変わります。6ゲーム先取なのか1セットマッチなのか、ノーアドバンテージ制なのかデュースありなのか、しっかり確認してからコートに入りましょう。
- ・**個人戦は選手以外は誰もベンチに入ることにはできません。コーチングも一切できません。**
- ・自分の**試合の順番が来てもコートに入らない場合、15分で失格**となります。暑い中（あるいは雨の降る中かもしれません）相手を長時間待たせないようにしましょう。「次の試合」になったらコートの後ろで待機し、前の試合が終わったら速やかにコートに入りましょう。このことは団体戦でも同じです。

服装

- ・中体連の大会は、学校体育の一環ですので、**服装やマナーに関しては厳しく臨みます。**
- ・試合がない時は、ユニフォーム以外の服装でいてもかまいませんが、学校（部活）で決めたTシャツなど常識の範囲に収まるような服装をさせてください。スリッパ（サンダル）でうろつくのは不可です。
- ・**熱中症の心配**がありますので、帽子はなるべく被らせてください。
- ・団体戦でベンチに入る大人（監督・外部コーチ）の服装は、選手の規定に準じます。そぐわない服装をしてベンチにいる場合は、着替えるようお願いすることがあります。**携帯・スマホ・タブレットなどは選手同様持ち込み不可**です。
- ・以下の事項は原則禁止で、医師の診断および診断書がある場合にのみ本部で検討・協議し、許可する場合があります。
 - ① **サングラスの使用。**許可が出た場合でも、外から見た時に目が見えるレンズに限ります。
- ・ベンチでの日傘の使用を認めます。団体戦・個人戦ともに**チェンジコートの90秒内レストの時**にのみ使用できます。**使用できるのは試合をしている選手のみ**です。熱中症予防の観点から導入されました。
- ・**学校教育の一環です。スマホの持ち込みは厳禁です。指導を必ず各校各クラブよろしく**お願いします。

駐車場

- ・会場に車で来られたら、指定の駐車場に必ず駐車してください。**会場前の道路での人や荷物の積み下ろしは、短時間であってもできません。**テニス関係以外の車もこの道路を通ります。そういう方に迷惑をかけますし、事故の可能性もあります。**人や荷物の積み下ろしは必ず駐車場に駐車してから行ってください。**
- ・バスで会場に来る場合は、**臨時駐車場（グラウンド）の奥に駐車**してください。指定駐車場にバスはとめないでください。**路上での乗り降り、荷物の積み下ろしは禁止**です。
- ・駐車場内外で起こった事故に関しては大会本部は責任は持ちませんので、十分気をつけてください。
- ・指定駐車場内の「赤いコーン」が置いてある場所には駐車しないでください。看護師用です。

【用語解説】

- 6 G先取** G＝ゲーム。ゲームカウントが5－5になったら、先に6ゲーム目をとった方が勝ちになります。その時のスコアは6－5となります。
- 1セットマッチ** 6ゲーム目を先にとれば勝ちですが、5－5になったら2ゲーム差をつけなければ勝ちになりません。6－5で終わりにはなりません。7－5なら勝ちですが6－6になったら「タイブレーク」を行い、そこで先に7ポイントとった方の勝ちで、スコアは7－6、タイブレークが7－4などとなります。他に3セットマッチや5セットマッチなどがあります。
- セミノーアド** 40－40のデュースになった時に、そのゲームの決着をつける方法の1つとしてこの「セミノーアドバンテージ方式」があります。1回だけデュースから2ポイント行き、どちらかが2ポイント続けてとれば終わり、両方が1ポイントずつ取り合って再びデュースになったらそこで1ポイントだけ行って決着をつけるという方法です。この場合、レシーブ側がサーブを受けるサイドを選択できます。
- ノーアド** 40－40になったらすぐに1ポイントだけ行き決着をつける方法です。この場合もレシーブ側がサーブを受けるサイドを選択できます。セミノーアドもノーアドも、延々とデュースが続いて時間がかかるのを防ぐための（時間短縮のための）方法の1つです。
- タイブレーク** 1セットマッチの試合で、ゲームカウントが6－6になった時に勝敗を決める方法です。最後の12ゲーム目にサーブをしなかった方が最初にサーブを1本だけ行き、あとは2本ずつサーブをします。先に7ポイントをとった方が勝ちになります。タイブレークのポイントが6－6になったら、2ポイント差がつくまで続きます。ポイントの合計が6の倍数になったらコートを変更します。チェンジコートの時は、ベンチに座って休むことはできませんが、90秒の中ですら飲み物を飲んだり汗を拭いたりすることはできます。